

中日国交正常化30周年



編集 中華人民共和國國務院新聞辦公室





30

中日国交
正常化

周年



周年

30

中日国交
正常化







目次

序文

一衣帯水

中日両国人民の長い
交流の歴史

8



24 第一篇

国交正常化

中日関係の新しい一頁



第二篇

平和友好条約締結
中日関係の大いなる発展

34



68 第三篇

歴史を鑑とし、未来を志向する
21世紀の中日関係の
新しい枠組みの構築

1963年10月1日、中華人民共和国の
国慶節の日に、天安門の城楼で石橋湛
山元首相夫妻と会見する毛沢東主席。



●序文

一衣帯水

中日両国人民の長い交流の歴史

中日両国は一衣帯水の隣国であり、友好交流の歴史も長い。新中国成立後、中日関係は不正常な状態にあったが、両国人民と有識者の尽力により、一歩一歩、民間交流から経済・貿易分野にわたる半官半民の関係にまで発展し、両国間の貿易面での往来と文化交流も二十世紀五十年代から回復を見せ、更なる発展を始めた。

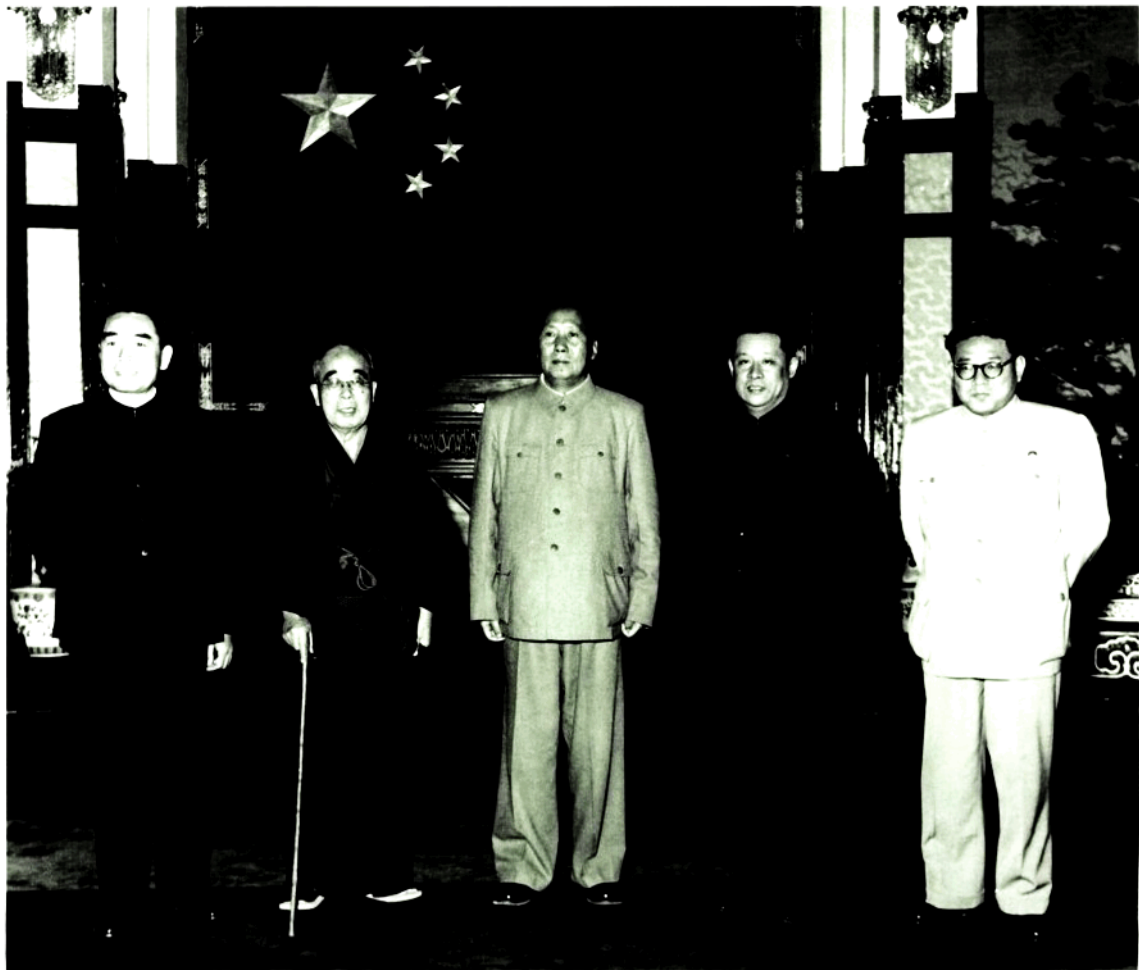


1952年5月、中国国際貿易促進委員会の南漢宸主席の招きに応じて、高良とみ参議院議員、宮腰喜助衆議院議員及び帆足計議員が北京を訪問した。三氏は新中国建国後、初めて訪中した日本人である。双方は会談を通じて最初の民間貿易協定に正式調印した。この訪問は画期的な意義を持つものとなった。





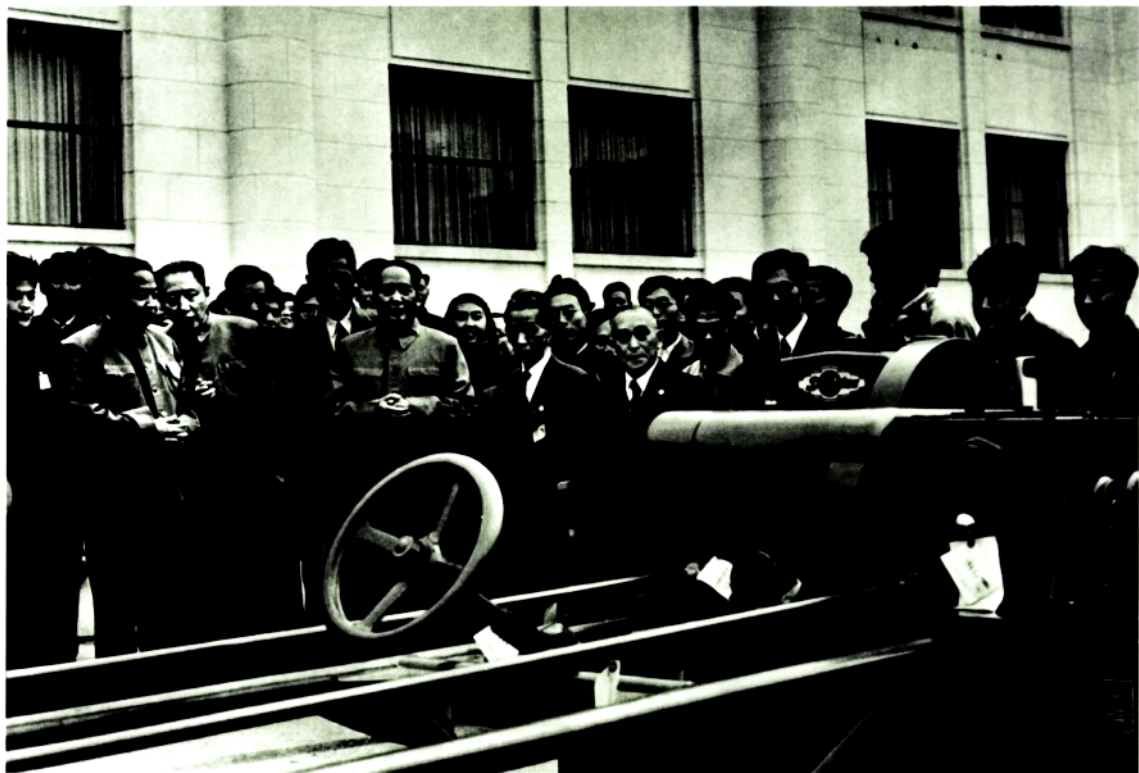
■ 1954年10月30日から11月12日にかけて、李德全会長を団長とし、顧問の廖承志氏を副団長とする中国紅十字会代表团が日本を訪問した。これは新中国建国後、最初の訪日代表团である。代表团はこの訪問で日本各界の呼びと幅広い交流を行い、中国人民の日本人民に対する友好の心を伝え、大きな成功をおさめた。これを機に民間レベルの関係は経済交流から政治交流にまで拡大し、日本の各政党と各界の友好を望む人士が相次いで訪中するようになった。



1955年10月2日、毛沢東主席は日ソ・日中国交回復国民会議訪中団の久原房之助団長と会見した。

1955年12月、中国科学院の郭沫若院長は
中国科学代表団を率いて日本を訪問した。





1956年10月6日、日本商品展覧会が北京展覧館で盛大に開かれた。この展覧会には毛沢東主席も参観に訪れている。中日両国人民が共に努力したことで、20世紀50年代中期までに連続して四つの民間貿易協定が調印され、1955年には東京と大阪で、1956年には北京と上海で経済貿易商品展覧会が開かれた。

1959年3月、武漢で漢口船次郎壽記長の率いる日本社会党訪中代表団一行と会見する毛沢東主席。



